

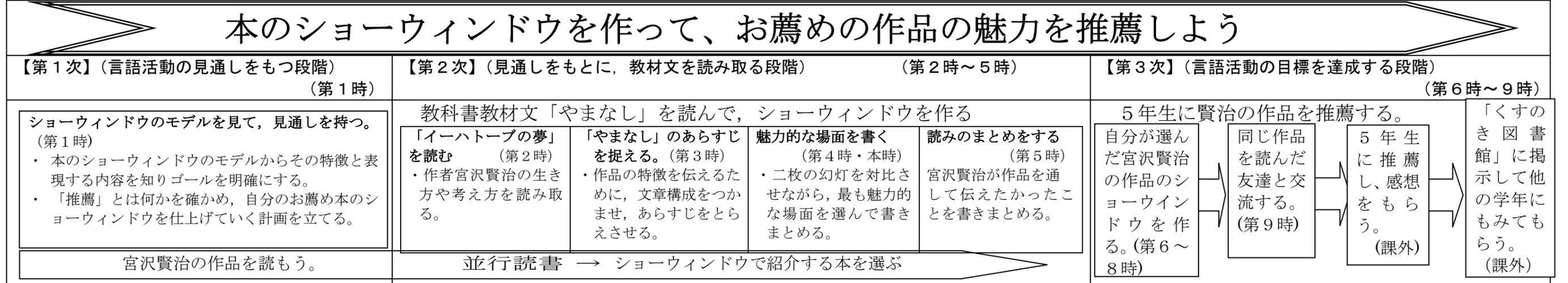
単元名 「本のショーウィンドウで宮沢賢治作品を推薦しよう」

身につけさせたい力
単元の目標
 ○ 登場人物の相互関係や場面についての描写をとらえ、作者宮沢賢治の生き方・考え方と関係づけて作品を読み、優れた叙述に対する自分の考えを「本のショーウィンドウ」にまとめることができる。
 ○ 情景や比喻表現を読む読み方、文章構成の工夫や題名のはたらきを読む読み方を活用しながら、作品の推薦の文章を「本のショーウィンドウ」に書き表すことができる。
指導要領指導事項
 ・「登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。」また、言語活動例「本を読んで推薦の文章を書くこと。」を確実に実現できるようにしている。 (C 読むこと エ)

単元を貫く言語活動
 本のショーウィンドウを作って、お薦めの作品の魅力を推薦しよう
言語活動を行うために必要な力
 ◎優れた叙述について自分の考えをまとめる。
 ○「本のショーウィンドウ」に表すために、情景や比喻表現や文章構成の工夫や題名のはたらきを読む。
 ○物語の叙述からお薦めのところを見つける。
 ・それぞれの本の特徴をとらえて推薦する。
 ・引用して自分の考えが伝わるようにして書く。
 ・本や文章を読んで、自分の考えをまとめる。
 ・一人一人の感じ方について違いあることに気付く。



単元計画と指導構想



手立て

第1次 ○ 導入前から、宮沢賢治の作品を複数冊準備し、読めるようにしておく。 ○ 宮沢賢治の「注文の多い料理店」のストーリーテリングで作品に興味をもたせる。 ○ 5年生にお薦めの本を推薦する相手・目的意識をもたせる。	第2次 1 宮沢賢治の生き方・考え方をつかむために、「イーハトーブの夢」を読み、生き方や考え方が分かる叙述にサイドラインを引き、「宮沢賢治は○○な人」に表し、交流する。 2 あらすじを書く際に、物語の場所、主人公が5月と12月どうなったか、文章構成の特徴は何かを入れて書くことを全体で確認した。 3 全文読みを宿題に出し、読む中で、魅力的な場面を見つけて、付箋を貼るようにした。 4 交流の際には、叙述を指し示しながら、自分の考えを交流した。相違点を見つけながら交流させた。	第3次 ○ 「やまなし」のショーウィンドウを書いた手順を学習計画表として掲示し、参考にできるようにした。 ○ 「やまなし」のショーウィンドウと同じ型のワークシートを準備した。 ○ 同じ作品ごとのグループを組み、交流しながら推薦文を書いていき、考えを深められるようにした。 ○ 5年生という相手を意識させながら書かせていった。
--	--	---

実践の成果
 ○ 単元を貫く言語活動を位置付けることで、単元の導入から展開、終末まで一連のつながりが見られるようになった。
 ○ 並行読書を取り入れたことで読書量が増えた。
 ○ 各項目に沿って読む学習を行ったことにより、児童は読みの視点をもって文章を繰り返し読むようになり、叙述を基に想像して読むことができた。

課題
 ○ 1時間の中で、1項目を完成させていくためには、第2次の45分の時間配分を、より柔軟に考えていく必要がある。
 ○ 交流させる際、出し合いに終わるグループがあった。グループ交流や全体交流の手順を明確につくり、活発な話し合いになるように、具体的な手立てを探る必要がある。